

国民医療費の動向

衆議院総選挙は終盤戦を迎えています。報道各社は与党有利を伝えています。が、最後まで気を緩めること無く仲間の勝利のために戦って参ります。

10月8日、9日の2日間にわたり東京国際フォーラムを主会場に13,000人超の参加者を迎えて開催された第50回日本薬剤師会学術大会は、衆議院総選挙を間近に控えて多忙な中、安倍内閣総理大臣並びに加藤厚生労働大臣が開会式に来られ、祝辞を述べられました。また、その後の特別記念講演では、一昨年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大村聡先生の「微生物創薬と国際貢献」と題した、イベルメクチンをはじめ多くの製品開発つながった長年の独創的な微生物研究のお話、会場を埋め尽くした聴衆は魅了されていました。更に、日医・日歯・日薬の会長による多職種連携をテーマとしたパネルディスカッションや数多くの分科会など、50回の節目に相応しい盛り上がった大会となりました。大会を主催された関係者の皆様方のご尽力に改めて敬意を表したいと存じます。

さて、厚生労働省は先月、平成27年度の「国民医療費の結果」と平成28年度の「国民医療費の動向」を公表しました。

「国民医療費の結果」は、医療機関における保険診療の対象となる傷病の治療に要した費用の推計であり、医療保険による給付のほか、公費負担や患者負担の医療費を合算したものです。また、「国民医療費の動向」は、医療機関からの診療報酬請求に基づき、医療保険及び公費負担の医療費を集計したもので、労災や全額自費等の費用を除いた概算医療費であり、国民医療費の98%を占めると推計されているものです。

平成27年度の国民医療費は42兆3,644億円となり、前年度に比べて1兆5,573億円、3.8%増と、医療の高度化と高齢化の進展に伴い毎年確実に伸び続けています。診療種類別に見てみると、医科診療医療費は前年度比2.7%増の30兆461億円、歯科診療医療費は1.4%増の2兆8,294億円、薬局調剤医療費は9.6%増の7兆9,831億円となり、C型肝炎治療の画期的新薬「ハーボニー」「ソバルディー」の高額薬剤が使用のピークを迎え、薬局調剤医療費の押し上げに影響したものだと思われまます。

一方、平成28年度の概算医療費は、前年度比0.2兆円、0.4%減の41.3兆円となっています。このうち、医科診療は0.4%増の30.7兆円、歯科診療は1.5%増の2.9兆円と前年度に比べて増加していますが、調剤は4.8%減の7.5兆円と大幅に減少し、医療費の引き下げ要因となりました。

これは、平成28年度の診療報酬改定において、薬価が1.22%引き下げられたのに加え、市場拡大再算定による薬価の見直しや年間販売額が大きい品目に対

する市場拡大再算定の特例の実施により、抗ウイルス剤をはじめとする薬剤料が減少したことによるものと思われます。

これまでも色々な場面で指摘していますが、医療の場で高い評価を受けた画期的新薬の価格引下げは、医薬品企業の新薬開発意欲を削ぎ、結果的にわが国の医療レベルの低下につながるのではと危惧しています。